



第34回

少年ジェット『希望の翼』 研修報告書

Shonen Jet "Wings of hope" 34th Study Abroad Report
January 4-12, 2026 Perth, Australia

CONTENTS

01 表紙

02 目次

03 派遣団員名簿 海外研修行程表

04 ～ 29 研修報告

04-07 少年ジェット「希望の翼」の軌跡

08-09 小林 弦矢 (岩見沢緑陵高等学校2年)

10-11 宮本 航成 (岩見沢東高等学校2年)

12-13 福井 里夏 (岩見沢東高等学校1年)

14-15 廣岡 菜緒 (千歳高等学校1年)

16-17 北野 友里花 (栗山高等学校1年)

18-19 五十嵐 拓海 (栗山中学校2年)

20-21 熊谷 楓子 (栗山中学校2年)

22-23 水野 天護 (栗山中学校1年)

24-25 長澤 志歩 (栗山中学校1年)

26-29 フォトギャラリー

30 裏表紙 (ロットネスト島)

栗山町では外国でのホームステイ体験や交流を通じて、国際感覚豊かな青少年育成のため、町内の中学生・高校生を海外に派遣する『少年ジェット「希望の翼」』事業を、平成2年(1990年)から実施しています。今回派遣されたのは中学1年生から高校2年生までの9人。派遣団員は6回の事前研修でホームステイの心得や英会話の学習を行い、海外研修に備えてきました。パースでの研修は2人1世帯、5泊6日のホームステイでのホストファミリーとの交流を中心に、英語レッスン、施設見学、班別行動などさまざまな体験をおとしてオーストラリアの文化や歴史について学習しました。本書では、第34回少年ジェット「希望の翼」派遣団のオーストラリアでの海外研修を報告します。

派遣団員名簿



海外研修行程表

月 日	場 所	時 間	交通機関	内 容
1日目 令和8年 1月4日(日)	総合福祉センター 新千歳空港発 羽田空港発 成田空港発	9:00 11:40 12:30 19:20	専用車 JL508 便 リムジンバス QF080 便	出発式、終了後新千歳空港へ 新千歳空港から羽田空港へ 羽田空港から成田空港へ 成田空港からメルボルンへ
2日目 1月5日(月)	メルボルン空港着 メルボルン空港発 パース空港着	7:45 10:10 11:15	QF771 便	入国手続き メルボルン空港からパース空港へ パース空港から AQWA 水族館、ヒラリーズボートハーバー、キングスパーク訪問
3日目 1月6日(火)	パース	終日	—	ホストファミリーと対面し、ホームステイスタート
4日目 1月7日(水)	パース	9:30 ～ 17:00	公共交通機関	オーストラリア文化を学ぶ英語レッスン 「オーストラリア州立博物館」へ見学 ホスト宅へ
5日目 1月8日(木)	パース ロットネスト島	9:00 ～ 17:15	ホスト送迎 専用車	ロットネスト島訪問 バスツアー見学 ホスト宅へ
6日目 1月9日(金)	パース	9:00 ～ 16:00	ホスト送迎 専用車	カバシャムワイルドライフパーク、マーガレット・リバー・チョコレート ファクトリーへ訪問 ホスト宅へ
7日目 1月10日(土)	パース	終日		各ホームステイ先と自由時間
8日目 1月11日(日)	パース パース空港発	14:00 22:55	徒歩 QF654 便	各ホームステイ先と自由時間 パース市内観光 パース空港からシドニー空港へ
9日目 1月12日(月)	シドニー空港発 新千歳空港発 総合福祉センター	9:05 19:00 20:00	QF107 便 専用車	シドニー空港から新千歳空港へ 新千歳空港から栗山町へ 解散式

少年ジェット「希望の翼」の軌跡

2025/07/23	募集開始
2025/08/31、09/07、09/09	面接
2025/09/10	派遣団決定
2025/10/07	結団式・説明会
2025/10/20～12/26	事前研修①～⑥
2026/01/04～01/12	本研修
2026/01/27～03/03	事後研修①～②
2026/03/07	国際交流のつどい

研修引率者： 栗山町教育委員会 主事 田中 成明
栗山中学校 英語教諭 山下穂菜美



◆1月4日(日)
いざ出発
9時より、総合福祉センター「しやるる」の中ホールで出発式を行いました。吉田教育長が「覚悟を決めて自らチャレンジし、皆さんの経験をしてくてください。皆さんが成長して帰ってくることを楽しみにしています。」と激励。団長の小林弦矢は「事前研修で学んだことを活かし、英語や文化についてたくさん学んでいきます。最高の思い出となるよう派遣団員一丸となり、楽しく挑戦できる9日間にします。この研修の機会をくれた教育委員会や家族、栗山町の皆さんに感謝の気持ちを忘れずに行ってきます。」と決意を述べました。吉田教育長と保護者に見送られ、いざ出発です。



◆1月5日(月)
パース到着
成田空港から約11時間かけてメルボルン空港へ。入国審査を済ませ、いよいよパース空港へ向かいます。長いフライトに耐え、いよいよパースに到着。現地ガイドの真由美とジェイクに付いて行き、外に出ると真青な空とまぶしい真夏の太陽がお出迎え。団員達は嬉しさからか移動の疲れを忘れたようでした。
レストランでは団員自ら注文に挑戦。フィッシュ&チップスやハンバーガー、パンケーキなどを注文し、いただきました。
ホテルチェックイン後は近くのラングレーパークを散歩。巨大なスワン川とその先に見えるビル群と輝く夕日の風景に笑顔が溢れ、ワクワクが止まらない様子でした。

◆1月6日(火)

ホストファミリーと対面

ホテルで朝食を済ませた後、いよいよホストファミリーと対面です。団員達は不安から緊張の様子でした。それぞれのホストファミリーに迎えられ、今日は休日と一緒に過ごします。



◆1月7日(水)

文化交流レク&博物館見学

午前中はジェイクによる文化交流レク。お互いの国の文化や食の違いについて学びました。現地で定番のポテトチップスやチョコレートのお菓子、世界一不味いジャムと言われるベジマイトを食べたり、日本文化のけん玉をしてホストバディと交流しました。

お昼は近くの公園に移動して、ホス

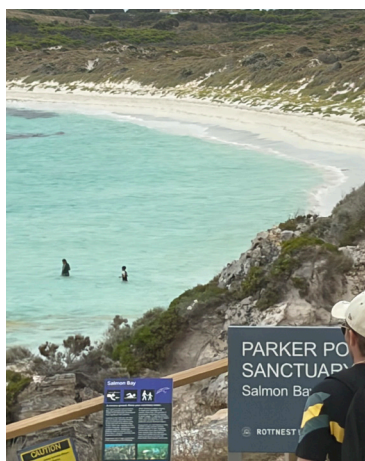
トファミリーが用意したランチBOXを食べました。午後は西オーストラリア州立博物館に行き、班に分かれて謎解きゲームに挑戦しながら館内を見学しました。団員達はそれぞれ自分のホームステイ先以外のホストバディとも徐々に交流を深め、この日の最後には仲良く会話をして過ごしていました。



◆1月8日(木)

ロットネスト島

今日もホストバディと一緒に行動します。港に集合し、フェリーに乗ってロットネスト島へ向かいます。フェリーの一番上のテラス席にみんな座り、強い風も楽しみながら50分程で島に到着。港周辺を自由散策。多くのお店が立ち並ぶショッピング街で買い物を楽しんだり、透き通った青い海と白い砂浜を歩いたり、レンタル自転車で島内を散策したり、それぞれ思い思いに時間を過ごしていました。昼食休憩の際にはアルプス一万尺の手遊びで盛り上がりつつありました。午後はツアーバスに乗り、島内をぐるりと見学しました。世界一幸せな動物と呼ばれるクオッカは島内各所でたくさん見ることができ、その姿にみんな癒された様子でした。多くの団員が一番楽しみにしていたロットネスト島のロケーションに、「海が綺麗で、クオッカにも会えて、ここに来れて良かった」とみんな口を揃えて言っていました。



◆1月9日(金)

カバシヤムワイルドライフパーク

カバシヤムワイルドライフパークはコアラ、カンガルー、ウオノンバット、クオッカなどオーストラリアを代表する固有種や200種類以上の動物がいる動物園で、見るだけでなく、触れ合いが出来る動物も数多くいます。特にカンガルーへの餌やりではジェイクがやり方と注意点を教えてくれて、みんな恐る恐る挑みましたが、カンガルーはとてもおとなしく、体をなでたりして楽しむことができました。



ランチを食べた後は、マーガレットリバーチョコレートカンパニーに行き、試食用のチョコレートを食べたり、店内カフェでアイスを食べるなど、買い物を楽しみました。英語でのコミュニケーションにも慣れ、ホストバディに日本語を教える場面もあったり、会話を楽しんでいました。何よりみんな仲良く楽しんでます。

◆1月10日(土)

ホストファミリーと過ごす1日

それぞれのホームステイ先で過ごす1日。団員が行きたい所をリクエストしてショッピングに行ったり、BBQをしたり、イルミネーションが綺麗な夜景を見に行ったり、カレーを作ったりホストファミリーに振舞った団員もいました。それぞれ思い出に残る1日を過ごすことが出来たようでした。



◆1月11日(日)

お別れ・市内散策、帰路へ

14時にホテルに集合で、いよいよホストファミリーとお別れです。団員達はそれぞれホストファミリーに向けて手紙を渡し、感謝を伝えました。お別れの場面では笑顔で最後の言葉を交わし、抱き合って別れを惜しむ人、寂しくて涙を流す人、また会うことを約束する人、それぞれの思いが溢れた瞬間でした。

お別れ後は市内散策。パース市内で過ごす最後のタイミングはお土産購入を中心に過ごしました。夕食はレストラン「Oak & Vine」にてハンバーガーを食べながら思い出話に耽っていると、飛行機の時間が迫ってきました。ホテルに戻り荷物を受け取り、空港へ向かいます。空港にはサプライズでホストファミリーの1家庭が見送りに来てくれました。なんと春先に日本に来る予定でいるとの事で再会を約束していました。22時55分発のシドニー行き便に乗ります。最後にガイドの真由美とジェイクにそれぞれ感謝を伝え、いよいよパース滞在も終了です。



◆1月12日(月)

ただいま、栗山町

無事に飛行機は飛び立ち、朝6時5分シドニー空港に到着しました。搭乗手続きも慣れたものです。出発まで少し時間があつたので空港内で各々土産を買ったりして過ごしました。9時5分、出発の時間になり、いよいよオーストラリアともさよなら。

たくさんさんの人の優しさや温かさ、少年ジェット研修を経験した人にしかわからないであろうたくさんの感情と、感謝の気持ちを持って日本に帰ります。

18時10分、新千歳空港に到着。栗山交通の赤いバスに乗って栗山町へ帰ります。8日ぶりに北海道へ降り立ち、真っ白な雪景色を見て故郷に帰ってきたんだなと全員が感じました。

19時30分に総合福祉センター「しゃるる」に到着。解散式では「言語の壁に苦労したが、言葉が伝わる喜びを感じた」「食文化や価値観の違いなど、日本とは違う文化を肌で感じ、知れて良かった」など一人ひとり感想を述べ、最後に副団長の宮本航成が代表し「団員達全員が無事に帰国することが出来て良かったです。コミュニケーションに苦労したり、文化の違いに戸惑う場面もありましたが、海外の文化を学ぶ

貴重な機会になりました。」と少しにくましくなった顔つきで感想を述べました。その言葉は嘘偽りなく、たくさんの試練に臆することなくチャレンジし、新たな発見や気づきがたくさんあつたと思います。

最後に団員から家族への感謝の手紙を渡し、解散式が終了しました。





「少年ジェットを通して」

岩見沢市立緑綾高等学校2年 小林 弦矢
(写真左から2番目)

私が少年ジェットに申し込んだ理由は、大きく分けて二つあります。一つは過去の研修経験、もう一つは周りの方々の応援です。

私は三年前、新型コロナウイルスの影響でオンライン形式となった少年ジェットに参加しました。当時中学二年生だった私は英語が得意ではなく、むしろ苦手意識を持っていました。しかし「オンラインなら挑戦できるかもしれない」という気持ちで参加しました。

実際に始まってみると、英語でのやり取りは想像以上に難しく、答え方が分からず悩む場面も多くありました。それでも自分なりに努力し、周囲の方にも助けをもらいながら無事研修を終

えることができました。その経験をきっかけに英語への見方が変わり、少しずつ授業内容も理解できるようになり、英語は主要科目の中で一番楽しいと感じる教科になりました。

今回の研修の参加について申し込み締切ギリギリまで迷っていました。前はオンラインで知っている人もいたため乗り越えられた部分もあり、初めてのホームステイに対して不安が大きかったからです。しかし、少年ジェットに参加できる機会は次年度は受験があるため最後のチャンスでした。そのため、「申し込まなかった後悔をするより、今年挑戦したい」という思いが強くなり、過去の参加者や親からの思い出話や応援の言葉のおかげもあり迷っていた気持ちを捨てて参加を決めました。

研修では、ホストファミリーとの生活を通して日常英語を学ぶこと、日本との文化や生活習慣の違いを知ること、そして海外の人と関わることでコミュニケーション

シヨンの幅を広げ、自信と自立心を身につけることを目標にしました。

出発前は英語力への不安が大きかったため、覚えておくの良いフレーズや体験談の動画をたくさん見てスマホにメモを取りました。

事前研修では「しっかりと声を出すこと」と「間違いを恐れずに話すこと」を意識しました。チームの目標である「失敗を恐れず、積極的に楽しく取り組む」を大切に、最年長として自分から行動することも心がけました。

長い行きフライトを終えて、パースに到着して外



に出た瞬間、強い日差しと暑さに驚き本当に海外に来たんだなという実感がわきました。現地ではたくさん人の体験をしましたが、特に印象に残っているのは海やプールでの時間です。自由行動の日には海へ連れて行ってもらい、何度も泳いだり飛び込んだりしました。ロットネスト島でも短い時間でしたが海に入り、忘れられない思い出になりました。

食事初めてのもののばかりで、BBQではカンガルーの肉を食べました。フィッシュアンドチップスは魚なのにぷりぷりしていて、日



本とは違う食感が印象的でした。買い物ではスーパーの広さや商品の多さに驚き、日本にはないお菓子もたくさんありました。ショッピングナイトの日には夜遅くまで服やお土産などの買い物を楽しみました。現地では良い意味で英語を浴びる毎日でした。ホストファミリーは優しくサポートしてくれましたが、お店では普段通りのスピードで英語が話され、最初は戸惑いましたがそれがまた良い経験になりました。私は、とにかく笑顔で接することを大切に、団員やホストファミリーだけでなく、他の団員のバディたちとも積極的に関わるようにしました。自分の持っている最大限の英語力と、伝わりやすい表情やジェスチャーを使って気持ちを伝えました。そこで学んだのは、英語が苦手でも伝えようと努力することが大切だということです。たとえ下手でも、単語を必死に並べるだけで周りばかりみ取ってくれると実感しました。

今回の研修を通して一番の成功は、素敵なホストファミリーと出会えたことです。出発前から温かいメッセージをいただき、滞在中も英語を助けてくれました。帰国の日には空港まで見送りに来てくださり、本当に愛されていると感じました。

一方で、キャリアケースが小さく、お土産で荷物がいっぱいになってしまったことは反省点です。

帰国後は英語の課題も前向きに取り組めるようになり、デュオリンゴやスピークバディなどのアプリも始めました。英語がさらに好きになり、海外への興味も高まりました。これからは勉強を続け、テストの点数



アップを目指すとともに、英語音声で映画を見るなど楽しみながら英語に触れていきたいです。

少年ジェットに少しでも興味がある方には、ぜひ挑戦してほしいです。もし参加される方がいれば、私もたくさんアドバイスしたいと思います。

本当にこの9日間は内容が濃く、書ききれないほどの思い出ができました。不安だったのは行くまでだけで、現地では毎日が楽しく、改めてこの年齢で貴重な経験をさせていただいたことに感謝の気持ちでいっぱい입니다。関わってくださったすべての方々、本当にありがとうございました。





「勇気ある一步がくれた成長」

岩見沢東高等学校2年 宮本 航成

私が少年ジェットに参加しようと思った理由は、「海外って実際どんな感じなんだろう」と純粹に興味を持ったことでした。英語は学校の授業で学んできましたが、自分の英語が本当に通じるのか試したいと思いました。また、今しかできない経験をしてみたいという気持ちもあり、思い切って応募しました。

オーストラリアまでのフライトは想像以上に長く、正直とても疲れしました。機内でもあまり眠れず、到着したときは体が重く感じました。でも、パースの空港に着いたとき、「本当にオーストラリアに来たんだ」と思い、不思議とわくわくした



着いてから2日目、ホテルで初めてホストファミリーと会ったときは、とても緊張しました。ロビーで待っている時間は長く感じ、不安でいっぱいでした。しかし、笑顔で手を振りながら近づいてきてくれて、「Welcome!」と温かく迎え入れてくれました。そのとき、緊張が一気にほぐ

れたのを覚えています。ホストファミリーはとても優しくて面白い方たちでした。冗談を言って笑わせてくれたり、私が英語に詰まってもゆっくり聞いてくれたりしました。大学生の子どももいて、年齢が近いこともあり、学校の生活や趣味の話で盛り上がりました。

滞在中には、パースの綺麗なビーチを巡りました。ずっと続く海は本当に美しく、日本とは違う景色に感動しました。ビーチへ向かう車の中では、ホストファミリーとたくさん会話をしました。勇気を出して自分から質問をしてみると、会話が広がりました。その



時間は、景色以上に心に残っています。

また、西オーストラリア州立博物館ではオーストラリアの歴史について学びました。先住民のアボリジニの文化や、国がどのように発展してきたのかを知ることができました。日本とは違う歴史を感じました。英語の展示を読むのは簡単ではありませんでしたが、現地で学ぶことで、教科書だけではわからないリアルさを感じることができました。さらに、謎解きにも挑戦しました。英語のヒントを読み取りながら答えを探すのは簡単ではありませんでしたが、友達と協力しながら考える時間はとても楽しく、



自然と英語に向き合うことができました。

BQも体験しました。そのとき初めてカンガルーの肉を食べました。日本ではなかなか食べる機会がないので少し緊張しましたが、実際に食べてみると意外とあっさりしていて、牛肉と似ていて驚きました。

ロットネスト島にも行きました。綺麗な海と自然豊かな景色は本当に美しく、日本とはまた違う雰囲気がありました。島で見た風景は、今でもはつきり思い出せます。短い時間で海に入ったこともいい思い出です。また、パスは日差しが強く暑かったですが、湿度が低いので、日本の夏よりも過ごしやすと感じまし



た。気候の違いも新鮮でした。動物園にも行きました。

実際にカンガルーと触れ合うことができ、日本ではできない体験にとっても驚きました。思っていたよりもおとなしく、近くで見ると迫力がありました。また、コアラと写真を撮ることもできました。ふわふわしてとてもかわいく、オーストラリアに来たことをより実感する瞬間でした。

そして特に印象に残っているのは、泡と泥の中を駆け抜ける5kmの障害物イベントに参加したこと。想像以上にきつく、泥だらけになりながら必死に走りましたが、一緒に出た人たちと声をかけ合いながらゴールを目指す時間はとても

楽しかったです。顔が泥まみれになってみんなで笑い合ったことは、忘れられない思い出です。

この研修を通して学んだのは、英語力だけではなく、自分から一歩踏み出すことの大切さです。最初は不安だったことも行動してみるという思い出に変わりました。

帰国してからは、以前よりも自分から話しかけることが増えました。この経験をこれからの学校生活や将来にも生かしていきたいです。

そして、これから少年ジ

エットに参加する皆さんへ伝えたいことがあります。不安があっても大丈夫です。私も最初はそうでした。でも、その一歩

がきつと自分の世界を広げてくれます。失敗を恐れず、自分から行動してみてください。帰ってきたとき、きつと少し成長した自分に会えるはずです。

最後に、10代でこんな貴重な経験をさせていただき、感謝の気持ちでいっぱい。本当にありがとうございました。





「一歩を踏み出す勇気～異国の地で出会った新しい自分～」

岩見沢東高等学校1年 福井 里夏

私が少年ジェットに応募した理由は、大きく分けて3つあります。1つ目は、多文化国家としての歴史や先住民族であるアボリジニの文化について深く知りたいと考えたからです。2つ目は、現地での食文化やマナーを肌で感じたいと考えたからです。そして3つ目は、学校で学ぶ英語ではなく、実際に生活の中で触れる英語を試したいという挑戦心があつたからです。

今回の研修で私が掲げた最大の目的は、「積極的に現地の人と関わり、多様な価値観に触れること」でした。単に観光地を巡るだけでなく、現地の人々と対話し、彼らが何を大切に生きているのかを理解したいと考えました。出発前、私は「自分から新しい話題を振って、たくさん話す」という小さな目標を立て、事前研修ではとにかく英語を話すことに力を入れました。しかし、期待が高まる一方で、もし言葉が通じなかったらという不安も拭いきれずにいました。



パースでの生活で、最も文化の違いを肌で感じたのは食についてです。テーブルに並ぶ料理はどれもとてもボリュームがあつて、驚きの連続でした。特に、ホストファミリーとの食事では、ホストシスターが作ってくれたレタスの中にカレー味のひき肉を包んだ料理がとても新鮮で印象に残っています。朝食のシリアルはとってもカラフルで、初めは驚いたのですが、その美味しさに感動して日本にお土産として買って帰ったほどです。

一方で、自分の口に合わないものもありました。それはベジマイトです。オーストラリアの名物であるベジマイトの独特の風味に思わず顔をしかめてしまいましたし、ウインナーが入ったカレーや、濃厚すぎるクリームパスタに苦戦するところもありました。そしてランチボックスを開けた時の衝撃も忘れられません。中には、まるごと一個のりんごがそのまま入っていたり、カルパスやチーズ、お菓子が詰め合わされていたりと、日本のお弁当とは対照的なワイルドなスタイルに、オーストラリアの自由な空気を感しました。また、ある朝、マザーに「コーヒー飲む？」と聞かれた際、「砂糖と牛乳を入れれば飲めるよ」と英語で伝えられたことは、小さな自信になりました。他にも、海鮮ではなく揚げ物のせられた海外版の寿司



や、屋外で豪快に焼いたBQなど、パースの食文化は私の五感を常に刺激してくれました。個人的には、昼食や夕食の時間が日本より早く、その分朝の時間にゆとりがあるパースのライフスタイルがとても過ごしやすく感じました。

5日目のロットネスト島へ向かう高速フェリーの上で、私は海外らしい温かさ

くれた瞬間、それを見ていた周囲の乗客たちが一斉に「Wow!」と拍手を送ってくれたのです。他人の成功を自分のことのように喜び、拍手で称える、日本とはまた違うその光景に触れた時、恥ずかしいけれど優しさに触れて嬉しいような、なんとも言えないむず痒い感覚を覚えました。この経験が、私の緊張を壊すきっかけとなったのです。

に遭遇しました。デッキで海風を浴びていた際、突風で帽子が飛ばされてしまったのです。頭から帽子がなくなった感覚がし、飛んできた帽子を見て、私はやつてしまったという後悔に襲われました。しかし、帽子が飛んだ方向にいた団員の方が帽子をキャッチして

帽子の事件で勇気をもらった私は、ロットネスト島のバスツアーで、隣に座ったホストファミリーの女の子に自分から話しかける挑戦をしました。緊張で英語がめっちゃくちゃでしたが、彼女は笑顔で私と話してくれました。この一歩があったからこそ、私たちは今でも

も連絡を取り合うほどの親友になれました。そんな彼女との距離が縮まった後に起きたのが、今でも思い出しますがバスルームの勘違いです。彼女が「バスルームに行きたい」と言った時、私はつい「えっ、今からお風呂に入るの?」と思い焦ってしまいました。外出先でお風呂に入ると言われパニックになったのですが、彼女は笑いながらバスルームとトイレの違いを教えてくださいました。仲良くなった後だったからこそ、この失敗と一緒に笑い、文化の違いを楽しく学ぶことができました。帰国後も、彼女とはSNSで繋がっています。私が「最近テスト期間で大変だ」と送ったり、彼女からは「今日、誕生日パー

ティーをしたんだ!」と、友達を呼んだり、クッキー・ケーキを作ったりなど日本とは比べものにならないほど盛大なパーティーの写真が届きます。また、私が「スキーをしたよ」と送れば、真夏のパースにいる彼女は日本の雪景色に驚き、反対に彼女は「今日は40度だったんだ」と言いあまりの暑さに私は驚きました。以前までは暗記するものだった英語が、今では彼女と話すための大切なものになりました。

私にとっての新たな目標です。これから行く皆さん、失敗はすべてネタになります。「なんでお風呂?」と勘違いした私でも、こんなに素敵な思い出ができました。笑顔で一歩踏み出してみてください。

最後になりますが、この研修を乗り越えられたのは、共に笑い合った団員のみんな、全力で私たちのサポートをしてくださった先生方、この研修を計画してくださった教育委員会の皆様、そして私を信じて送り出し、支えてくれた家族の応援があったからです。私をこの素晴らしい研修に参加させていただき、本当にありがとうございました。

この経験を一生忘れず、これからも歩んでいきます。



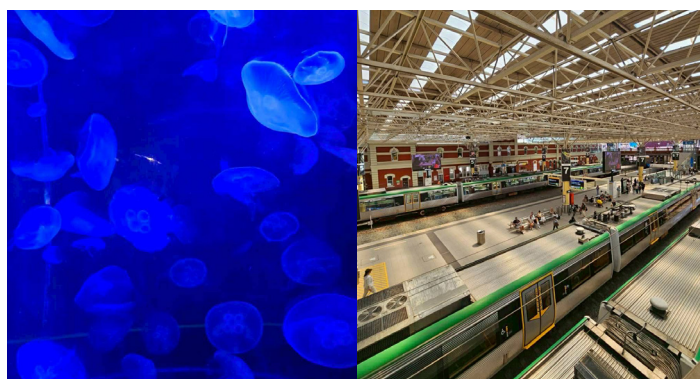
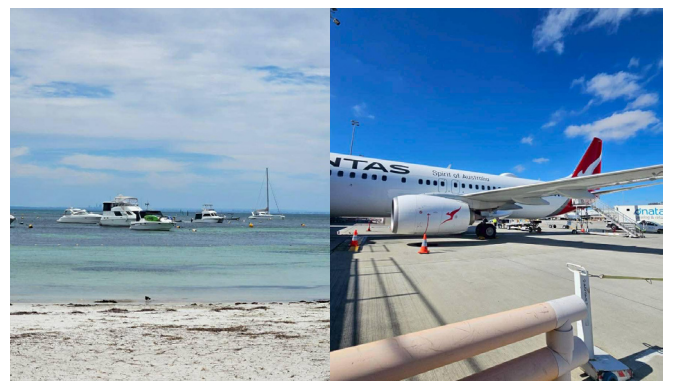


「オーストラリアでの経験」

千歳高等学校1年 廣岡 菜緒

私が今回の少年ジェットに応募した理由は、異文化をもっと知りたいと思ったからです。私が思うようにになったのは2年前、家族でアメリカに旅行したことがきっかけです。日本と違うところが沢山あり驚きました。その違いに興味を持ち多様な文化を知りたいと思うようになりました。この研修に参加するまで、私は英語を話すのが苦手でした。でも自信がありませんでした。また内気な性格なのでホストファミリーと仲良くなれるのが不安でした。しかし、事前研修の英語レッスンやイングリッシュキャンプを通して不安が少しなくなりました。実際に使えるフレーズを学んで喋ってみたり、間違えてもALERTが丁寧に教えてくれたのでだんだんと自信がつき、会話をたくさんすることで話すのが楽しくなりました。そのおかげでオーストラリアでは人見知りをせず、ホストファミリーと仲良くすることができました。

オーストラリアに行つて体験したことは全てが新鮮で、毎日がとても充実していました。成田空港からメルボルンに到着し、まず入国審査がありました。飛行機の中で聞かれることを想定し、それに対する答えを頑張って覚えていたのですが、着いて実際にその場所へ行ってみると機械だけで入国をすることができました。その後、メルボルンからパースに行くための飛行機に乗りました。その飛行機は乗るまでに一回外へ出て階段を上がり乗る人たち



でした。最初は混乱しましたが、近くで飛行機を見ることができて嬉しかったです。パースに着いてからは、AQWA水族館とキングスパークに行きました。水族館ではサメやクラゲなどいろいろな種類の生物がいました。キングスパークではパースの町並みや川などの綺麗な景色を一望できて楽しかったです。

パースに来て2日目。ついにお世話になるホストファミリーと対面しました。朝からずっと緊張していま

したが、笑顔で名前をきいたり話してくれたので安心しました。ホストファミリーの家についてからは、パディーの作ってくれたお昼ご飯を食べ、飼っている犬と一緒に散歩に行きました。近くの公園まで行き、そこには犬用の水道があり驚きました。夜に日本のお菓子と、事前研修で作成した招き猫を渡すとても喜んでくれました。

3日目は午前中にオーストラリアの文化を学び、有名な食べ物を食べました。午後は博物館に行き謎解きをしました。日本語でも難しいですが英語になるとなおさら考えることが多くなり大変でした。他の子のパディーと一緒にチームでしたが私が分からなさそうにしていると一緒に懸命教えてくれて理解することが出来ました。謎解きが終わって、帰り道を歩いている時先程チームが一緒だった子が私に「How old are you?」と話しかけてくれました。楽しく会話をしていました。が、「Do you have any

siblings?」ときかれ私は知らない単語がでてきて戸惑ってしまいました。すると、「きょうだい」と日本語で言ってくれたので私は理解することができました、その単語を覚えることもできました。

4日目は私が一番楽しみにしていたロットネス島に行きました。フェリーの一番上に乗り、島まで向かいましたが風がとても強く立つのが難しいほどでした。島に着いて驚いたことはそこら中にクオツカがいたことです。寝ている子や親子でいる子達がいて癒されました。そして海がとても青くて綺麗だったので30分くらいずっと砂浜で眺めていました。

5日目はカバシヤムワールドパークとスワンパレーに行きました。動物園では近くでカンガルーを見て、餌をあげられたり、コアラやウオシバットと写真をとることが出来ました。スワンパレーではチョコレートを手作りしているとところを見て、お店には沢山の種類

が置いてありました。

6日目はホストマザーに町中にある大きなショッピングモールに連れてってもらいました。歩いていると日本食のお店が多く、特にお寿司屋が沢山ありました。その後、買い物を終え、家に帰るために電車に乗りました。オーストラリアで電車に乗れるとは思っていませんでしたのでとてもワクワクしました。電車からは野生のカンガルーを見ることのできて日本では見られない光景でした。

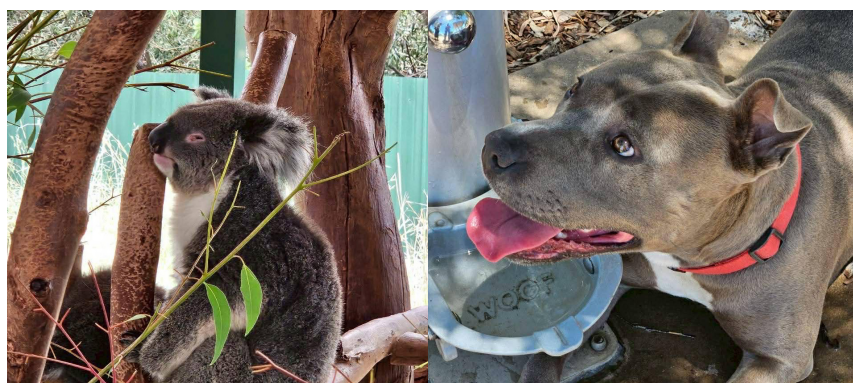
7日目は朝から「チャペル」という教会に行きました。最初は歌を聴いてその後は話をきくような流れで



歌は楽しく聴くことが出来ました。話の内容は難しく、単語も聞いたことがないものばかりでした。お昼にはついに6日間過ごした家から出発する時間になり、最後に私は感謝の手紙をホストファミリーに渡しました。するとみんな感動し、ハグをしてくれオーストラリアで楽しく過ごすことができました。

私は今回の研修で英語が通じるととても嬉しく、これからもっと英語を勉強しようと思うモチベーションになりました。また、沢山の経験をして色々な国の人と関わってみたいと思うようになりました。国や文化が違っていても英語を通して人と関わることの楽しさを

感じました。外国の文化や考え方にも興味を持ち、視野の広い人になりたいです。私はこの研修に参加していなければ今のようにな成長できていなかったと思うので、勇気を出して挑戦することが大事だと思います。





「オーストラリアでの経験」

栗山高等学校1年 北野 友里花

はじめてのオーストラリア研修は、出発前からとても楽しみでドキドキしていました。英語が本当に通じるのか、自分の気持ちをちゃんと伝えられるのか不安もありましたが、それ以上に新しい世界を見てみたいという気持ちが強かったです。楽しいな気持ちと同時に、家族や友達と離れて過ごすことへの少しの寂しさもこみ上げてきました。飛行機の中では、これから始まる毎日を想像して胸がいっぱいになり、なかなか眠ることができませんでした。



「本当に海外に来たんだ」と強く実感しました。空港から見える街並みや道路、走っている車までもが新鮮で、すべてが新しい発見の連続でした。ホームステイ先では、ホストファミリーが笑顔で温かく迎えてくれて、その優しさに緊張が少しほぐれました。最初の自己紹介はとても緊張しましたが、ゆっくりとかならずきながら聞いてくれたので安心し、「伝えようとすれば大丈夫かもしれない」と少し自信を持つことができました。

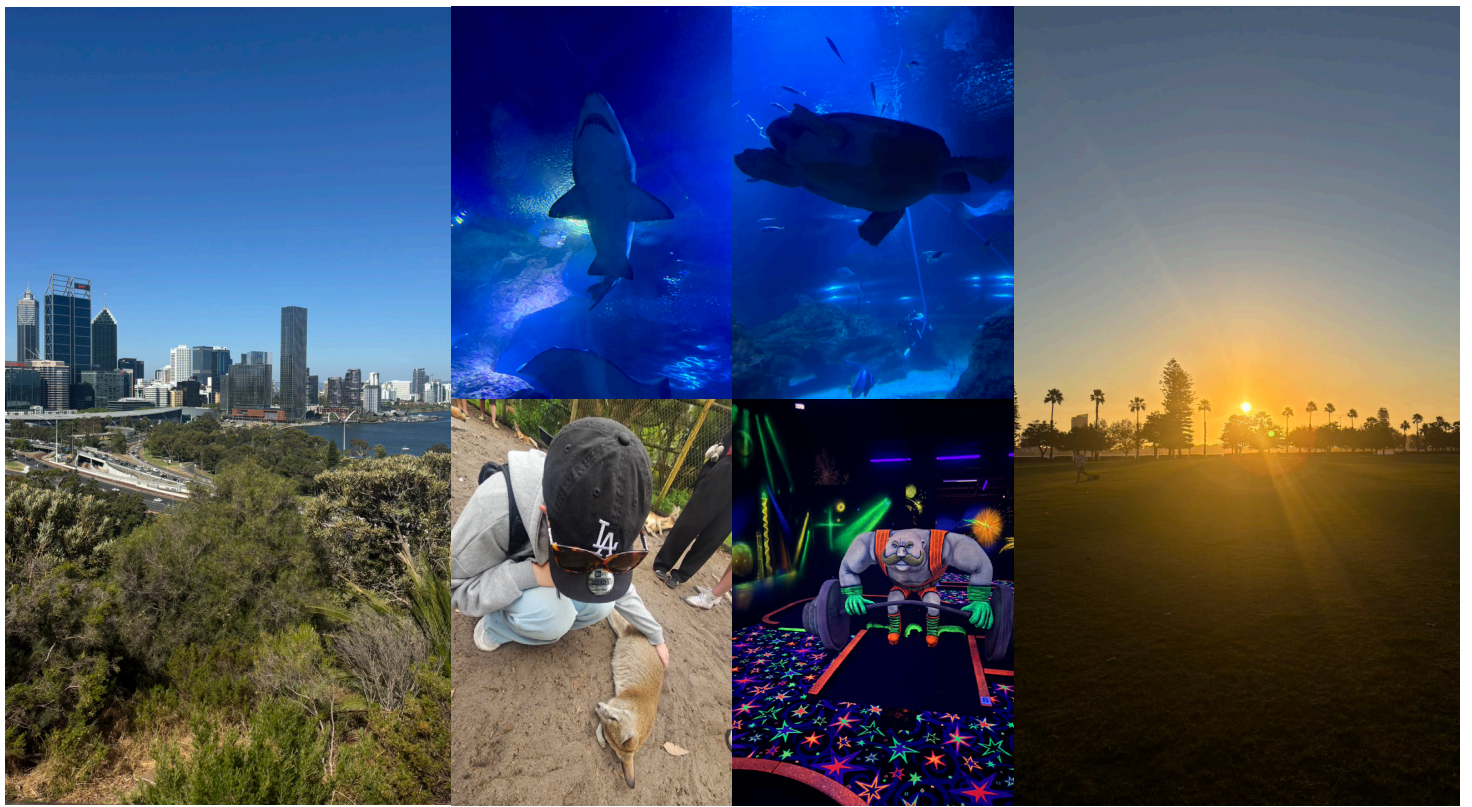
滞在中は、ホストファミリーと一緒にスーパーへ買い物に行ったり、夕食を囲んだりしました。日本ではあまり見かけない大きなステーキや色とりどりのお菓



子が並んでいて、見ているだけで楽しく、思わず写真を撮りたくなるほどでした。また、食事の時間には学校のことや日本の文化について話す機会が多く、自分の国について英語で説明する難しさを実感しました。しかし同時に、日本の良さや当たり前だと思っていた習慣を改めて見つめ直すきっかけにもなりました。ホストファミリーが興味を持つて質問してくれることで、会話をする楽しさも感じるようになりました。

最初の数日は、相手の話す英語がとても速く感じられ、何を言っているのかわからないことも多くありました。そのたびに不安になりましたが、「分からないま





まにしないことが大切だ」と思い、「もう一度言ってください」や「ゆっくり話してほしいです」と勇気を出して伝えるようにしました。すると、相手は優しく言い直してくれたり、簡単な言葉に言い換えてくれたりしました。その経験を通して、完璧な英語でなくても、自分から伝えようとする気持ちが何より大切だと学びました。また、ジェスチャーや表情も大きな助けになることに気づき、コミュニケーションの幅が広がったように感じました。

団員の人々と一緒にビーチや動物園にも行きました。どこまでも続く海と白い砂浜は本当に美しく、時間がゆっくり流れているように感じました。波の音を聞きながら過ごした時間はとても心地よく、日常の忙しさを忘れさせてくれました。夕日が海に沈んでいく景色は言葉では表せないほど美しく、その瞬間の空気や色合いは今でもはつきりと思い出すことができます。また、動物園ではカン

ガルーやコアラを間近で見ることができ、日本ではなかなか体験できない貴重な時間となりました。自然のスケールの大きさや動物たちののびのびとした様子に触れ、オーストラリアならではの魅力を強く感じました。

この研修では、文化の違いも数多く感じました。食事の時間や生活リズム、家族との関わり方など、日本とは異なる点がたくさんありましたが、その一つ一つがとても新鮮で興味深いものでした。最初は戸惑うこともありましたが、違いを受け入れることで視野が広がり、自分の考え方も柔軟になったように思います。

異なる文化を知ること、自分の価値観を見直す良い機会にもなりました。



研修の最後の日、ホストファミリーとお別れするときは、とても寂しく、涙が出そうになりました。短い時間でしたが、一緒に過ごした日々の中でたくさんのおい出ができて、家族のような温かさを感じていたからです。最初は不安でいっぱいだった私ですが、帰る頃には「もっと英語を話せるようになりたい」「また海外に行って新しいことに挑戦したい」と強く思うようになっていました。

このオーストラリア研修を通して、英語の力だけでなく、自分から一歩踏み出す勇氣や、相手を理解しようとする姿勢の大切さを学びました。失敗や不安もあったもののほうが大きく、自分自身の成長を実感しています。この経験はこれから自分の自信につながり、将来に向けての大きな一歩になりました。今回学んだことをこれからの学校生活や日常の中でも活かし、さらに成長していきたいと思っています。



「完璧よりも大切なこと」

栗山中学校2年 五十嵐 拓海

私が本格的に英語を勉強しようと思ったきっかけは、地元の夏祭りで手伝いをしていた時の悔しい出来事です。小さな外国の男の子に英語で「これは何？」と話しかけられたのですが、当時の私は頭が真っ白になり、簡単な単語すら出てきませんでした。ただ困って笑うことしかできず、何も答えられなかった自分が情けなくて、「もっと英語が話せたら、楽しくコミュニケーションが取れたのに」と強く思うようになりました。そんな時、友達から海外派遣プログラム「少年ジェット」を勧められました。「そんなに悔しいなら、挑戦してみなよ」という言葉に背中



を押され、参加を決意しました。今振り返ると、この研修は私の海外に対するイメージをガラッと変える大きな経験になりました。

出発までの事前研修や自主学習は想像以上に大変でしたが、不思議と辛くはありませんでした。「あの時のように言葉に詰まらず、現地の人と話したい」という明確な目標があったからです。



出発当日のフライトは、これまでにないほど長い時間に感じましたが、これらの出来事への期待で胸がいっぱいでした。経由地のメルボルン空港に着いた時、日本とは違う空気感を肌で感じ、「やっとオーストラリ

アに来たんだ」と感動したのを覚えています。



パースに到着後、最初に向かったAQWA水族館で、現地の方から「写真を撮ってください」と英語で声をかけられました。これが現地の初会話でしたが、驚いたことに相手の言葉がすんなり理解でき、自然にやり取りをすることができました。夏祭りの時のように言葉に詰まることなく、笑顔で応じられたことは、私にとって大きな自信になりました。

研修二日目のホストファミリーとの対面では、最初は緊張していましたが、ペアのバディーが積極的に話しかけてくれたおかげで、

すぐに打ち解けることができました。車中で「どこに行きたい?」と聞かれ、「ビーチに行きたい」と答えると、すぐに連れて行ってくれました。目の前に広がった海は、今まで見た中で一番美しく、心から感動しました。その後、ホストファミリーに連れられて参加したバドミントンでは、言葉が完璧でなくてもスポーツや笑顔を通じて心が通じ合うことを実感し、オーストラリアの人々の温かさに触れることができました。

三日目の文化交流では、日本の「けん玉」を紹介しました。苦戦していた現地の人たちが、練習を重ねて

できるようになった時の嬉しそうな顔は忘れられません。また、噂の「ベジマイト」にも挑戦しました。周りの友達も苦戦していましたが、私は意外にも好きな味で、自分の新しい一面を発見した気分でした。午後の博物館では、謎解きゲームを通じてアボリジニの歴史を学びました。教科書で学ぶよりも、自ら英語のヒントを読み解きながら進む体験は、難しさはありましたが、ゴールした時の達成感は格別でした。

研修後半のロットネスト島では豊かな自然の中に残る戦争の跡を辿り、カバシャム・ワイルドライフ・パーク

クではコアラとの触れ合いを楽しみました。帰宅後、バディーと「福笑い」をして大笑いした時間は、言葉の壁を越えた最高の思い出です。



この研修を通して学んだ一番大切なことは、「完璧さを求めて足踏みするよりも、まずは自分の言葉で伝えてみる」ということです。失敗を恐れずに飛び込むことで、英語で繋がる本当の楽しさを知ることができました。

最後に、このような貴重な機会を与えてくださった教育委員会の皆様、そして支えてくださった関係者の皆様、ありがとうございます。





「成長したオーストラリア」

栗山中学校2年 熊谷 楓子

私は、小学五年生の時に E C C ジュニアという英会話教室に通い始めました。始めたばかりの頃はなにもわからなくて、嫌になりながらやっていました。けれどある時英語がどんどん理解できるようになって英語が楽しい！もつと勉強して、いつか喋れるようになりたい！と思うようになり、そこから海外にも行ってみたいなと思うようになりました。

また、中学一年生の頃の世界地理でオセアニア州について学んだ時にオーストラリアの文化や歴史などにとっても関心を持って学びたいと思うようになりました。



このような理由から私は少年ジェットに申し込みました。私は少年ジェットに行くにあたって、主には英語の学習。アメリカ英語とオーストラリア英語の違い、本場の英語はどれほど私の能力で聞き取ることができなのか。そしてオーストラリアの歴史なども学びたいと思い、挑みました。

オーストラリアに行くまでに、メンバーたちと事前研修を数回行いました。ホームステイ先の人たちにあげるお土産作成や、実用的な英語の学習など、たくさん学びました。

オーストラリアではパースに行きました。パースは



オーストラリアの西側で、

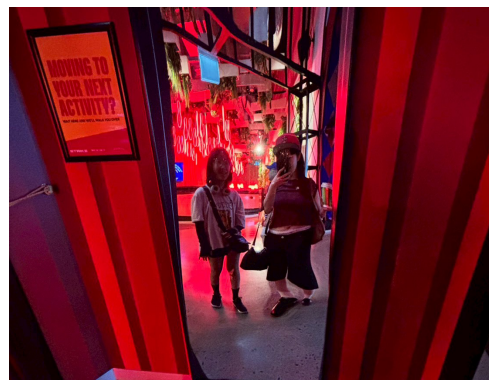
基本的に乾燥した気候、そして南半球の為、夏。日本と真逆の乾燥した夏を感じてきました。暑いけれど日陰や夜は涼しくとても過ごしやすい気候でした。またパースではたくさんの方のところに行きました。私は特にロットネスト島という島がとっても印象に残っています。そこにはクオッカと呼ばれる世界一幸せな動物と見ることができました。クオッカは「Don・t touch!」「Don・t feed!」ですが、見るだけでもこっちが幸せになってしまうくらい可愛くて可愛



くて仕方ありませんでした！

また、動物園に行きました。そこではカンガルーに触れることができたり日本にはいないたくさん動物たちを見ることができました！けれど動物たちのうちを何度も踏みそうになって危なかったです。それも一つの思い出です！

今回の研修ではホームステイを体験しました。ホームステイ先の家族はとにかく明るくて優しく面白くて最高でした！たくさん場所に来て行ってもらって、たくさん美味しいご飯を食べさせてもらいま



た。ホストファミリーのみんなとお買い物をしたのが、とても楽しかったです！そこには日本のアニメや、日本の専門店などがありました。日本人として少し嬉しくなった一つです！ホストファミリーも日本の文化やアニメがとても好きらしく、家にいる時は、日本のアニメをずっと一緒に見ていました。「Fuko Do you want to continue watching anime?」と毎日聞きました！そんな楽しいホストファミリーでしたが、唯一、大変だったのは、とっても美味しいご飯なのですが、お腹がいっぱいになってもご飯が次から次へと出てくることです…。お腹がいっ

ぱいなので、もういらないですと言っても次はアイスいる???と聞いてきて、今回のホームステイでは断る力を鍛えることができた笑また太りました！

オーストラリアでは、英語を聞き取ることができかなだとか、うまく私の英語が伝わるかな…と心配でした。しかし意外と伝わり、聞き取ることができました。何を言っているのかわからなかったら、何度も聞き返しましょう！ゆっくり言ってくれるし何度だってしゃべってくれました！またオーストラリアで出来た友達に、あなたの英語とてもいいね！と言われました。今まで英語の勉強を頑張ってやっていてよかったなと思った一番の瞬間でした。

オーストラリアに行ってみて、1番変化したことは、英語に対するモチベーションです。元々英語の勉強をする事が好きでしたが、オーストラリアに行ってみて、これからもたくさん海外に行きたいと思うようにな

りました。そうすると必然的に英語の勉強も頑張りたいと思いました！その為に高校受験や普段の勉強も沢山頑張ろうと思いました。この一週間で勿論、英語が喋れるようになった訳ではありません。しかし人間として成長した部分や、コミュニケーション能力、勉強に対するモチベーションのアップ、オーストラリアの綺麗な街並みや、人の温かみに沢山触れる事ができました。などの素晴らしいことととっても良い私の経験になりました。

これから、少年ジェットに行く皆さんへ。

この研修は自分にとって素晴らしい経験しかできません！少し不安だと思いますが、先程も書いたように、案外なことになります！失敗してもまあいいか！というとりあえずチャレンジ！の精神でやって見たらなんとかなります！行って見たら楽しいことしかないと思います！行って損は絶対にな

いのでぜひ応募してみてください！このような素晴らしい経験をさせていただき、沢山協力してください！沢山の方々、本当にありがとうございました。この経験をバネにこれから、沢山のこと

に挑戦し、沢山成長できるように頑張ります！



「海越えて、昔の自分越えて」

栗山中学校1年 水野 天護

僕は小学生の時に「少年ジェット」を知り、オーストラリアについて調べていくうちに「オーストラリアでしか見られない動植物を見てみたい、どんな気候なのか体験してみたい」と強く思い応募しました。合格の通知が来たときは「オーストラリアに行ける」と心臓が飛び出そうなほど嬉しくなりました。それと同時に初めての海外に緊張と不安でいっぱいでしたが、事前研修を重ねるたびに今まで隠れていた憧れの気持ちもたくさん出てきました。

出発前日、僕は「明日は日本出発か、忘れ物はないかな」という緊張に襲われてあまり眠れなかったことを覚えていきます。

一日目はオーストラリアへ向かいました。長時間の移動で不安でしたが、団員の皆と景色を見たりして過ごすうちに緊張がほぐれていきました。

二日目の朝、パースに着きました。飛行機の中から見えた美しい海に胸がいっぱいになり、疲れも眠たさも吹き飛ばすほどに感動しました。雪の

降り積もる栗山とは一変して、経験したことのない乾燥した空気と夏の太陽が待っていました。パースでは州立水族館でタツノオトシゴや子ワニを見ました。昼食にはオーストラリア名物のフィッシュ&チップスを食べました。大好物のタコスも一緒になったものだったので、僕にはお得なセットだなと思い美味しく食べました。

三日目は初めてバディと会う日でした。バディとはあまり連絡が取れないまま来てしまったのでとても緊張していました。僕が自己紹介でうまく話せないしていると、バディが「ゆっくりでも大丈夫です」と日本語で話してくれました。バディはとてもフレンドリーで優しく、緊張がほぐれてとても安心できました。バディの家の近くにはシティシーというビーチがあり、見たこともないくらい美しく今でもその景色がまぶたに焼き付いています。この日は強風だったので波が高く、海に入ると一斉に倒れてみんな爆笑してしまいました。

四日目はバディ達と一緒にレクをしました。他のバディともたくさん話をしました。そこでは将来の夢や学校の話、パース周辺の治安の話など、たくさん話を聞きました。

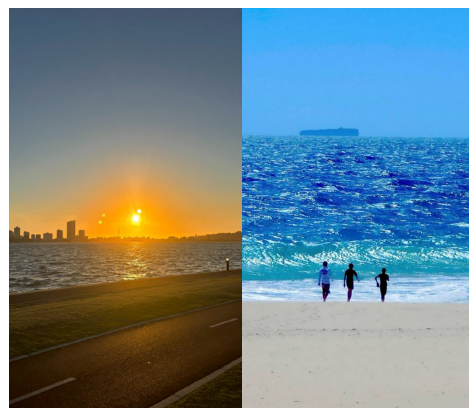
午後からは州立博物館へ行き謎解きをしました。僕のチームは五十嵐拓海君とバディと僕の三人です。手分けしてドンドン進んでいきましたが上がるのがあまりに早すぎて、博物館の看板が中国語になったのを見つたりなどたくさん観察をすることができました。この日はバディとの仲が親友に昇格した日でした。

五日目はロットネスト島に行きました。野生のクオッカワラビーがいると聞いていたのですごく楽しみにしていました。船で島に着くとクオッカワラビーの赤ちゃんがお腹の袋にいたりところを見ることができました。この時期に赤ちゃんを見ることができるとはとても珍しいらしく、すぐクッキーだと嬉しくなりました。初めて見るクオッカワラビーのかわいさに癒された一日でした。

六日目はワイルドパークと
チョコレイト工場に見学へ行
きました。ワイルドパークは
密林のようでワラビーやコアラ、爬虫類など滅多に見られ
ない動物にたくさん会えたの
がとても貴重な体験でした。
カンガルーには餌をあげたり
白い毛皮のカンガルーがいて
とてもかわいかったです。チョ
コレイト工場はお洒落なお店
でした。

七日目はホストファミリー
とショッピングモールへ行き
ました。日本の製品がたくさん
売っていました。スーパ
ーマケットのお菓子コーナー
ではチョコレイトがとても多
くて、これがオーストラリア
か、ここでも文化の違いを
感じました。文房具屋さん
も行き、文房具セットを自分
のお土産に買いました。この
日は置いている品物を見て「外
国らしさ」を感じた日でした。
八日目はホストファミリー
と過ごす最後の日でした。こ
の日は早起きして五十嵐君と
バディと三人でキックボード
に乗り公園へ行きました。ま
ぶしい朝日と心地よい涼しい

風、なにより三人で散歩に行
けたことが僕の記憶には今で
も鮮明に残っています。ホテ
ルでホストファミリーと別れ
るときはすごく寂しかったで
す。でも永遠の別れではない
よな、なんとか明るく握手
を交わしました。団員のみんなと合流してからはパース市
内を観光し、夜遅くにシドニー
行きの飛行機に乗りました。
ホストファミリーとパースと
の別れでとても寂しい夜にな
りました。
九日目は飛行機の中で迎え
ました。すぐに朝が来てシド
ニーに着きました。前の晩か
ら帰国準備で疲れていました
が、オーストラリア最後の朝
日はとてもきれいで目が覚め
ました。千歳に着いたときは
無事に北海道の地に帰れてす
ごく安心しました。
少年ジェットでの目標は「国
際交流で友達を作る」「日本
との違いを感じる」というも
のでした。ホストファミリー
の皆さんとも交流し友達にな
ることができました。オース
トラリアの方々の人柄や食文
化の違い、建物の違いなども



たくさん見てくることができ、
新鮮な体験でいっぱいでした。
そして僕が今回の研修を通
して成長できたと思う点は三
つあります。

一つ目は「もっと英語を話
せるようになりたい」と強く
思うようになったことです。
自分のことを伝えたくて知っ
ている英語をつなぎ合わせ一
生懸命伝えましたが、うまく
伝わらなかった経験を通して、
もっと英語を話せるようにな
りたいと強く思いました。

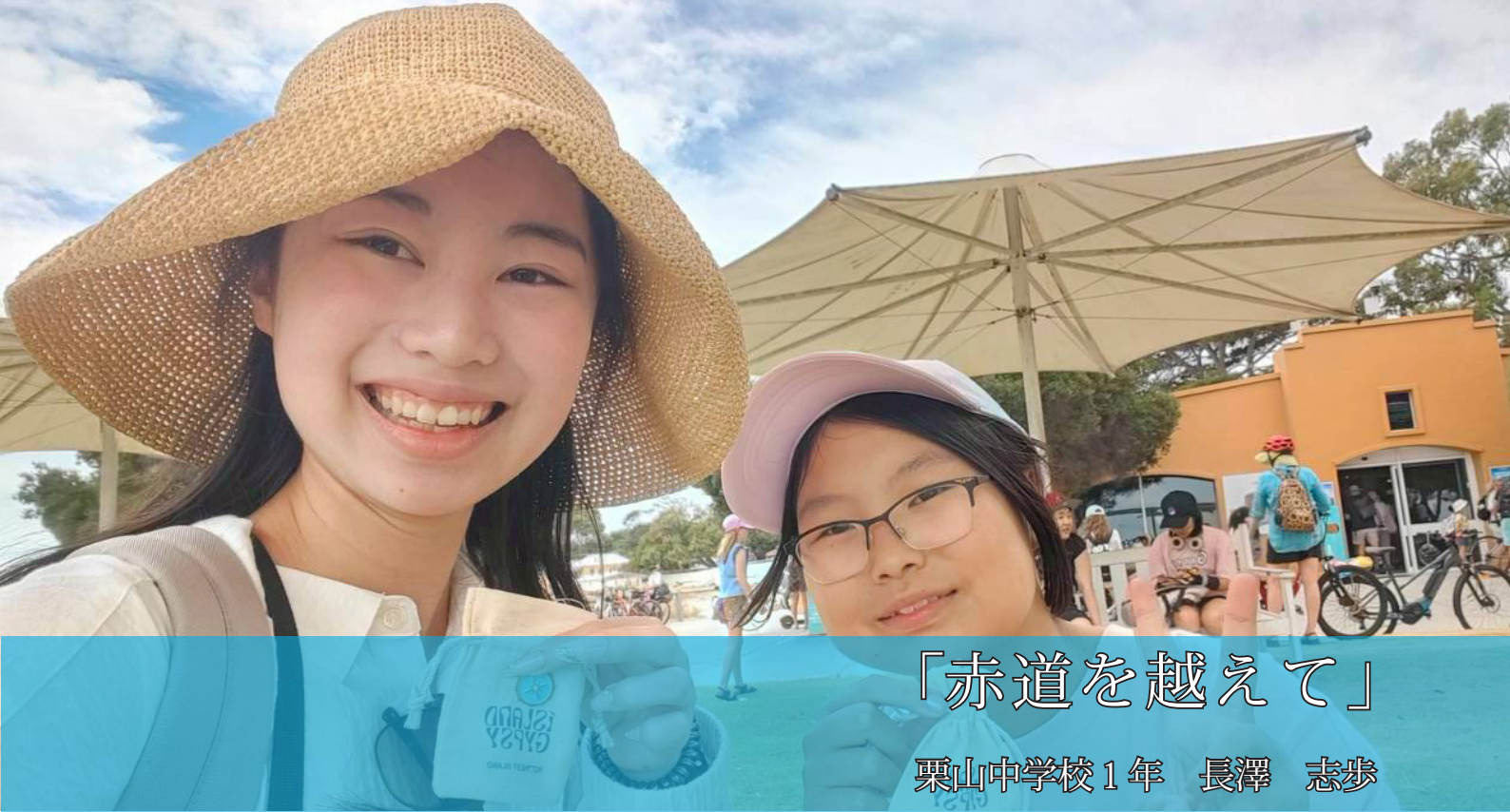
二つ目は、「知ることは楽し
い」と感じられたことです。
オーストラリアでは沢山の発
見がありとても楽しく、そし
て嬉しく思いました。これか
らは「知ることは楽しい」と

感じた経験を生かして何事に
も前向きに取り組んでいき
たいです。

三つ目は、以前よりも自分
の意見を伝えられるようにな
ったことです。これまで
周りの様子を見てから発言す
ることが多かったのですが、
バディから「もっとプラン出
して」と言われて悔しい思い
をしました。これからは失敗
を恐れずに自分の意見を伝え
ていきたいです。そして、相
手の考えも大切にしながら話
し合える人になりたいと思
います。

最後に、この少年ジェ
ットに関わってくださった教育
委員会の皆様、先生方、そして
支えてくれた家族や仲間
に心から感謝しています。本
当にありがとうございました。





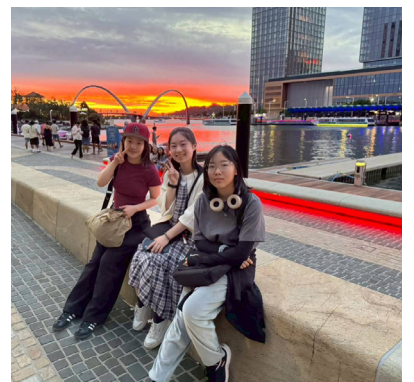
「赤道を越えて」

栗山中学校1年 長澤 志歩

さて、振り返ってみると、この少年ジェットの旅はともあつという間でした。しかし、この旅は私にとって人生を変える一步になったと、今では日々感じています。

私が少年ジェットに応募したのは八月です。応募した理由の一つ目は、海外での生活や学びを実際に体験したかったからです。二つ目は、将来の進路や受験を考える中で、自分の知らない世界で学ぶ経験は私にとって大きな意味があると考え、この海外研修に参加することを決めました。

今回、私は積極性とグローバルなコミュニケーション能力を身につけることを目的に、この研修に挑みました。約半年間の研修では、



幅広いサポートをしていたため、少しずつ不安も和らぎ、他の団員とも交流を深めることができました。

また、主な事前研修として、英語の学習や十一月に行ったイングリッシュキャンプ、ホストファミリーへのお土産として招き猫の作成などが挙げられます。私はもともと人との交流があまり得意ではありませんでしたが、これらの活動で自分から話しかけることを意識し、事前に練習をしておくことで、海外研修中の支えとなりました。

私が事前に行った取り組みは、実際に使える英会話フレーズをGoogleなどを活用し、すぐに使えるようになるまで繰り返し勉強することです。実際に現地ですることができ、とても役に立つため、嬉しさと達成感がありました。ただ、よく使う表現は、同じ意味でもいくつかのフレーズを持っておいただ方がよいと、ホームステイ中に感じました。例えば、感謝のフレーズ

ズはいくつあってもよいと感じました。

いよいよ日本を出発し、初めて国際線に乗ったとき、CAさんが英語を話しているのを聞いて少し緊張したのを覚えています。しかし、親切にゆっくり話してもらい、少し会話ができたことで、ちよつとした自信がついたのも印象に残っています。長時間のフライトでしたが意外と快適で、楽しみにしていた機内食もおいしかったです。フライト中は友達と話したりしながら、楽しく過ごすことができました。

オーストラリアのメルボルンに着くと、すぐに南半球ならではの空気や景色、眩しい太陽が目に入り、とてもワクワクしました。荷物整理をしようとしたとき、スーツケースにビーチが挟まってしまい、開かないことに気づきました。最初は自分で対処しようとしたが、思い切つて周囲の人に助けを求めたことで、無事に解決することができました。この経験を通して、

困ったときには一人で抱え込まず、助けを求めることも大切だと学びました。これは、その後の研修を進める上での重要な考え方となりました。今振り返ると、逆に良い経験になったと感じています。そして次は、パース空港へ出発しました。パースに着き外に出ると、

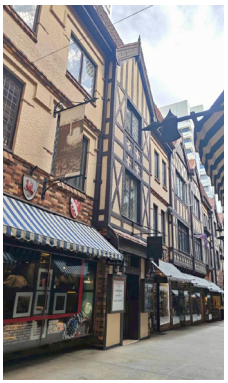
まだ慣れない夏の空気と素敵な街並みが広がっていました。

パースで過ごした一日目は、移動中もすべてが新鮮で、強く印象に残っています。この日はA Q W A水族館、ヒラリーズハーバー、キングスパークを訪問しました。ヒラリーズハーバーでは、みんなで昼食を食べました。初めて自分だけで



もとても親切にしてくれ、この日もホストファミリーと素敵な時間を過ごすことができました。

パースを訪れて四日目は、私にとって最も印象に残った日となりました。この日はロットネスト島をフェリーで訪れました。最初の自由時間では、バディと一緒に行動しました。クオツカと写真を撮ったり、一緒にアイスを食べたり、お土産ショップに行ったりしました。特に、バディとおそろいのチャームを買ったことは、とても嬉しく、大切な思い出です。



な思い出です。この経験から、すべての思いが伝わらなくても、伝えようとする気持ちと思いやりがあれば、きっと友達になれるのだと学びました。この気づきは、帰国後の私の成長を大きく支え、今では人としてしっかり向き合いながら関わることができるようになりました。

パースで成功したことは、積極的に話すこと、そして



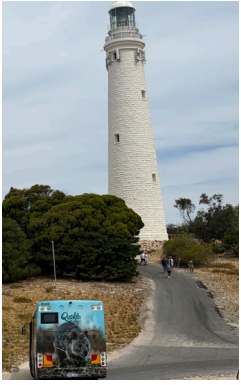
基本的な挨拶とお礼を忘れなかったことです。この経験があったからこそ、よりホームステイを楽しむことができたと思います。一方で、英語のフレーズのパターンが少なかったことは反省点です。次の団員には、さまざまな表現を準備し、より良い研修にしてほしいと思います。

今回の九日間の研修を通して、これからは語学力の向上だけでなく、人とのコミュニケーションを大切に、将来にも活かしていきたいと考えています。

このような素晴らしい機会をいただき、多くの学びを得ることができました。本当にありがとうございました。









Gate	Status	Time	Destination	Flight	Gate	Status	Time	Destination	Flight
1	55 Gate Open	08:55	Noumea	QF91	63		09:40	Wellington	QF161
			Nouméa	SB149				Te Whanganui-a-Tara	EK5047
	Gate shows 07:25	08:55	Auckland	QF143		Gate shows 08:05	09:45	Auckland	QF3
	Paparan pintu 07:25		Tāmaki Makaurau	TN1422		Whakaaturanga tatau 08:05			TN1452
26E	Boarding	09:00	Auckland	JQ201		Gate shows 08:10	09:55	Qingdao	JD480
			Tāmaki Makaurau	QF5521		Whakaaturanga tatau 08:10			
26C		09:00	Queenstown	NZ232	51		09:55	Auckland	NZ1
			Tāhuna					Tāmaki Makaurau	SO4
		09:05	Sapporo-Chitose	QF107	35		10:00	Bangkok	TC
							10:20	Port Vila	
	Gate shows 07:40	09:10	Seoul / Incheon	KE402	53		10:20	Seoul / Incheon	
	vakaraitaki ni matamata 07:40		羽田	VS5524	32		10:20	Christchurch	Ōtautahi
		09:15	Haneda	JL52		Gate shows 08:25	10:20	Bangkok	
			羽田			Whakaaturanga tatau 08:25			
		09:15	Queenstown	VA161			10:25	Kuala Lumpur	
			Tāhuna				10:40	Los Angeles	
		09:20	Shenzhen	CZ3072	30		10:45	Kuala Lumpur	
			深圳						
		09:30	Johannesburg	QF63	10				
	shows 08:00	09:30	Bangalore	QF67		Gate shows 08:45			
		09:35	Queenstown	QF121	31				
			Tāhuna	EK5008					
port.		Welcome to Gamay, Botany Bay, home of Sydney Airport.					Welcome to Gamay		





We are glad that we were able to successfully complete this training.
This trip was a truly invaluable experience, and brought us great
opportunities for growth.



少年ジェット「希望の翼」
(@syounen_jet2025)
instagram アカウント



令和8年3月発行
発行／栗山町教育委員会・少年ジェット「希望の翼」実行委員会
〒069-1513 北海道夕張郡栗山町朝日4丁目9番地36
TEL0123-72-1117／FAX0123-72-6522